

令和4年度 喜多方市文化芸術創造都市推進事業

きたかた「会津型」ミュージアム事業

成果報告

きたかた「会津型」ミュージアム事業の目的

地域の歴史や文化財などを「地域資源」として捉え、教育、観光、まちづくり等と連携しながら、その周知を行い、様々な分野への活用を図ることにより、喜多方ならではのまちづくりを実現するとともに、未来を担う人材を育成する。

数ある地域資源の中でも、喜多方の染型紙「会津型」は、見て楽しむだけでなく、型彫り体験やデザイン利用等の活用が可能であり、より身

近に感じられるという特徴がある。かつて会津型のデザインが東北各地へ広まったように、多分野での幅広い活用により、まち全体が会津型のミュージアムのようなことを目指すための事業に取り組んでいる(令和2年度～)。今年度は、市内の施設や商店、歴史的建造物を舞台に普及・活用事業を実施することで、身近に文化財を楽しむまちを実現し、文化芸術の創造性を地域振興に生かす取り組みを進める。

福島県指定重要有形民俗文化財

喜多方の染型紙「会津型」とは？

喜多方の染型紙「会津型」は江戸後期から昭和初期にかけて、喜多方の小野寺家を通じて販売・製造された染型紙（以下「型紙」という）です。小野寺家は、現在は漆器店を営んでいますが、もともと稲田村（現岩月町）にありました。稲田村にある墓碑には「形」の字が使われた戒名が彫られており、この墓碑の年代を考慮すると、18世紀半ばに型紙販売の歴史が始まったようです。

しかしながら、小野寺家でいつから型紙の製造が始まったのか明らかになってはいません。18世紀半ばは、紀州藩による型紙の市場独占が最も厳しく、伊勢型紙以外の型紙を他国で販売するのは難しい時代でした。経緯は明らかになっていないものの、伊勢の型紙商から仕入れて販売していたようで、19世紀前半には型紙商として東北へ行商に出るようになっていました。安政2年（1855）、仙台藩が藩内で他国製造の型紙の販売を禁止した際に、小野寺家も摘発されます。この時、「伊勢型紙と会津型は雲泥の違いがあり、会津で作ったものは持ち込んでいない」と主張しました。翌々年には会津藩の御用達を拝命し、その時の祝宴には「形切」として職人が呼ばれました。これらのことから、江戸の終わりには型紙を作っていたとかがい知ることができます。

明治になると、仙台にできた染工場といった大口の顧客と取引したり、需要に応える様々な種類の型紙を生産するなどして最盛期を迎えました。

こうして小野寺家は喜多方で唯一の型紙商として栄えましたが、戦時中による染料の不足など、時代の流れのなかで昭和10年頃に型紙商としての歴史の幕を閉じます。そして、小野寺家の蔵に残されていた3万6千点を超える型紙と、彫刻刀などの道具類、帳簿や見本帳などが「会津の染型紙と関係資料」として福島県の重要有形民俗文化財に指定されました。

※染型紙とは…渋紙（和紙を柿渋で貼り合わせて加工した丈夫な紙）に彫刻刀で模様を切り抜いたもので、模様を染め出すための道具として主に布に用いられる。



型紙を製造する際、何枚も重ねて彫るため、刃物が貫通するように一番下におかれた捨て紙（あて紙）などには、当時の反故紙が使われています。型紙生産を行っていた史料としても重要ですが、内容を読み解いたり、見るだけでも不思議な魅力があります。



見本帳。上：小紋の小さな点や模様。下：ページごとに色合いを変え、色彩豊かに作られています。

知る

0

会津型インスタ

現代の生活のなかで使ってみたいと思う会津型を選び、Instagramで紹介しました。



AIZU_KATA_KITA_KATA



知る

1

会津型勉強会

地域資源としての会津型の活用可能性について考えるため、伊勢型紙や紅型、漆芸等の活用事例や継承の取り組みを学びました。

7.2 ±

第1回『伊勢型紙の歴史と展開』

会場：喜多方市役所2階 大会議室

- ①「型紙が語ること ネットワークとしての型紙」
講師 生田 ゆき氏 (文化庁 文化財調査官)
- ②「伊勢型紙の技術と継承について」
講師 那須 恵子氏 (型屋2110 伊勢型紙彫師)

8.9 火

第2回『伝統工芸をつかおう』

会場：喜多方市立図書館2階 第二閲覧室

- ①「紅型 × 活用の仕組みづくり」
講師 岡本 幸樹氏 (株式会社ビハナコンサルティング 代表取締役)
- ②「漆芸 × 活用・協働」
講師 小林 めぐみ氏 (福島県立博物館 専門学芸員)

楽しむ

2

きたかた会津型

ミュージアム・ウィーク

市有施設や、市内の歴史的建造物などを会場に、会津型の展示やワークショップなどを開催しました。

「アートぶらりー」と同時開催!!!

開催期間：10/7~10/16

1. オープニングイベント「会津型のこれまで」 会場 喜多方プラザ小ホール

10.8 ±

① 特別ワークショップ

伊勢型紙 × 会津型 オリジナルポーチ作り 講師 那須 恵子氏

② トークイベント

講演 「会津型のこれまで」 講師 冠木 昭子氏 (会津型研究会 会長)

講演 「会津型との出会い」 講師 那須 恵子氏

会津型 × (カケル) 参加団体 PR

2. 展覧会「くらしのなかの会津型」 会場 蔵の里 イベント蔵

昔も今も生活に彩りを添えてくれる会津型のデザインに着目し、身近な生き物や西洋風の柄など、現代でもおしゃれさを感じる型紙を中心に展示しました。

3. 会津型 × (カケル)

市内の団体や学校による、ワークショップなどを通じて会津型に触れて楽しむ企画。

- 喜多方高等学校一月見橋いも庵 / アクセサリーワークショップ (スイーツ付)
- 喜多方桐桜高等学校一蔵の里 / 会津型プロジェクトマップとPR動画、手拭い制作と販売
- 耶麻農業高等学校一会陽館 / 小物制作ワークショップ (コースター等)、作品展示
- 会津型研究会一染織工房れんが / 型彫ワークショップ、色さしワークショップ
- 地域おこし協力隊吉田真菜氏一會津漆器組合商工協同組合 / 豆皿絵付け (蒔絵) ワークショップ

4. 会津型スタンプラリー

各会場にある5枚重ねると一つの文様になる型紙で色差しを行うスタンプラリー。

5. クロージングイベント「会津型のこれから」 会場 蔵の里 イベント蔵

10.15 ±

① 会津型 × (カケル) 参加団体 成果発表

② パネルディスカッション

会津型の魅力、創造都市としての喜多方の将来像

パネリスト 赤坂 憲雄氏 (喜多方市政策推進顧問)

高野 武彦氏 (会津地方振興局長)

遠藤 忠一 (喜多方市長)

会津型 × (カケル) 参加団体

進行 小林 めぐみ氏 (福島県立博物館 専門学芸員)

講評 川延 安直氏 (福島県立博物館 専門員)

会津型勉強会

第1回『伊勢型紙の歴史と展開』①

「型紙が語ること ネットワークとしての型紙」

講師 生田 ゆき氏



生田 ゆき

文化庁 文化財調査官

三重県立美術館で学芸員を経た後、文化庁文化財調査官。著書「日本の型紙 ISE KATAGAMI」をはじめ、型紙についての論文を多数執筆。特別展「ゆかた 浴衣 YUKATA ずしきのデザイン（泉屋博古館，2021年）」などでも講演。

文化庁調査官である生田さんは、型紙の魅力を「型染めの道具であり美術品でもあるという、色々な境界をさまよう定めがたさ」と語っています。染色技術あってこそその型紙産業であり、古くから布地や焼き物、革などに文様を写すために型紙が用いられ、そこには身の回りを飾りたいという人々の文様へのあくなき執念がありました。そんな型紙が工芸品などでどのように使用されるか、そして型紙商の歴史から今日の型紙のあり方まで、さまざまな角度から型紙についてお話しくださいました。

型紙は歴史も深く、その造形も魅力的で日本の伝統工芸を支える大事な技術ではありますが、市場規模はかなり縮小しています。産業として浮上することが難しい状況のなかで、歴史資料として解読し、再評価しようとする動きがあります。その時に対象になるのは「1. 墨書」「2. 商印」「3.糸入れ・紗張りといった技法」です。墨書や商印は肉眼で読めない場合がほとんどなので、赤外線を使って調査します。例えば、商印はどの型紙販売商を「通過」してきたのかを表すものです。代表的な型紙販売商の印が日本各地で見られますが、商印によって、どこで生産され、どの型紙商によって販売されたか、また何人の型紙商の手を渡って染め屋にたどり着いたのかを知ることができます。こういった型紙から読み取った情報から、かつての販売形態や流通を類推してその地域の歴史や産業、商業の構造と照らし合わせると、より型紙が立体的に活用できます。会津型の場合も、反故紙や商印を解読することでまだ

まだ得られる情報があるため、「ぜひ赤外線調査を」とすすめてくださいました。

そして、日本国内に限らず、海外には数万枚の型紙が流出し、日本国内の数より多いかもしれないほどです。そうした海外にある型紙にも多くの商印が見られますが、ほとんどが「勢州」のものだそうです。生田さんはこのような海外の調査にも1人で赴き、写真を撮ったり、赤外線を当てたりしながら調査票に記録する作業を1時間30枚くらいの猛スピードでこなします。こういった調査を経て、国内外で展覧会や国際シンポジウムが開催されたり、デパートの装飾や現代アートにまで広がったりと、いま、型紙は世界で熱い視線を注がれています。また、喜多方市や兵庫県三木市など、地域おこしに使うという動きも出てきています。さまざまな地域が連携することで、調査研究が進み、多くの分野に繋がっていきだろうと語ってくださいました。

生田さんのお話から、型紙は日本の伝統工芸品でありながら、いまでは世界的研究資料へと変化してきていることがわかりました。ただし、型紙を理解するには、日本の工芸史、服飾史、産業史、地方史などの要素がからみます。型紙は、複合的な要素がからむ交差点であり、一か所の型紙・一枚の型紙だけを調査しても何も見えてこない、調査を重ねる先に広がっていくネットワークなのです。会津型の調査をより深めて、今後さまざまな地域と交流していくことで、その重要性や価値が見出されていくのだということを教わりました。

会津型勉強会

第1回『伊勢型紙の歴史と展開』②

「伊勢型紙の 技術と継承について」

講師 那須 恵子氏

那須 恵子

型屋2110 伊勢型紙彫師

2010年に彫師を志し鈴鹿市に移住。突彫りの職人である生田嘉範氏に師事。伊勢型紙彫刻組合に加入し、工房内独立。2018年版・2021年度版三重県民手帳のデザイン・型紙制作を担当。三重県より中堅優秀技能者として表彰。

現役の伊勢型紙の彫師である那須さんに、今日の職人としての活動をお話いただきました。会津型にも縁が深い伊勢型紙は、江戸時代に藩の保護を受けて盛栄し、柄の精密さや細かさ、複雑さを極めた型紙です。

他の伝統産業と同じように、伊勢型紙の製造会社の数や職人も減って来ているなかで、伊勢型紙にとって最も重要なのは、人の手による技術の高さであると那須さんは考えます。そして、「技術の継承」のためには職人の手仕事を増やすことが必要だと考えました。

修行を始めて三年が経つころ、染め屋の現状を知りたいと、那須さん自ら営業に出るようになります。伊勢型紙の伝統的な職人たちは、型紙商人が「こういう柄を彫ってほしい」と家に持ってくる注文に答えて型紙を彫り、外に出向くことはほとんどなかったそうです。そうした伝統的な仕事の流れを変えて、得意先を見つけたり、自分でデザインや企画をしたり、仕事の幅を広げていった那須さん。最近では伝統的な資材の確保のための試作なども必要になってきているそうです。

さらに、SNSやメディアでの情報発信や、グループ活動も行うようになります。もともと職人は表に名前が出ることもほとんどなく、型紙に記されるのは型紙商の屋号などであったため、情報発信も新しい試みでした。東海地方で活躍する伊勢根付や、漆といったさまざまな職人たちとのSNSなどでの情報発信や展示会といった活動は、人に知ってもらう機会を増やすことができ、個々の仕事にも繋がっていくそうです。那須さんは、情報発信は本来は苦手だそうですが、それでも伊勢型紙をまもるために必要だと語っていただきました。

後半は、那須さんが専門としている「突彫り」の実演をしていただきました。ここでも、本来は高い集中力が必要であり人前でするものではないと、商品ではなく実演用を用意するという徹底ぶりでした。

那須さんは、ひたすら型紙を彫ることに没頭できるのが本来の職人の姿だと語ります。技術の習得だけでも相当な努力を要することが想像に難くないですが、伝統をそのまま続けるだけでは残っていけない難しさや、同じ型紙でも産地によって違った個性を持っていることを教えてくださいました。

会津型勉強会

第2回『伝統工芸をつかおう』①

「紅型 × 活用の仕組みづくり」

講師 岡本 幸樹氏



岡本 幸樹

株式会社ピハナコンサルティング 代表取締役

国指定伝統的工芸品「琉球びんがた（りゅうきゅうびんがた）」のデジタルデータを活用した商品開発により収益化するサービス『琉球びんがた NFT』など、日本各地の伝統的な文化や技術を継承するためのコンサル事業を展開する。

伝統的なものの活用について、びんがた（以下「紅型」という）の事例を中心にお話いただきました。岡本さんは、経済産業省の指定する「伝統的工芸品」に着目し、それらをつないでいくために、各産地を巡って伝統的工芸品を生産者とともに紹介するホームページを立ち上げたり、新たな商品開発を行うなどの活動を続けていらっしゃいます。

縁があって琉球紅型の産地を訪れることになった岡本さんは、コンビニエンスストアで紅型らしき柄をコピーしたものが棚の装飾として敷かれているのを目にします。そうした紅型風の柄が様々な場所で見られるようですが、そこからは紅型の職人さんに一銭も入っていないことがわかってきます。伝統工芸をもっと価値あるものとして扱う場所を作りたいと感じたそうです。

日本の伝統的なものは市場が縮小し続けており、持続のためにこれまで通りではない方法での収益化が必要であり、市場が拡大している観光の分野から収益を得られるのではないかと、岡本さんは考えました。独立して現在の会社を設立する前、著作権などの契約をまとめたりするのが専門であった岡本さん。デザインアーカイブを観光分野で活用することで、そこに発生する著作権料を職人の収入とする取組を始めます。

紅型の職人、事業者や自治体など、様々な立場の人たちとワークショップをするなどして、必要なものを整理すると、「1.琉球紅型のデザインを提供できる体制がない」「2.琉球紅型のデザインを使用してもらう時の契約書等がない」「3.上記2点を取りまとめる事務局がない」という課題が明らかになりました。

その三つの課題を解決するために、紅型の各工房（紅型は職人が一つの工房でデザイン・型彫・染めまでを行う）の著作権を整理して契約の管理等ができる琉球びんがた普及・伝承コンソーシアム（設立当時は任意団体で、後に社団法人）を設立します。この団体は、デザインのアーカイブを整理し、「紅型の柄を使いたい」という事業者などにデザインを提供して契約をまとめ、その著作権の利用料をデザインを制作した工房の収益とするものです。また、活用の幅を広げるために商品等の企画も行うそうで、旅客機の座席カバーやチョコレートなどに活用した事例をご紹介くださいました。設立のために、岡本さん自ら産地の会社や銀行に出向いて出資を募ったそうです。

著作権は、日本では19世紀の終わりによく法律ができたもので、その何百年も昔から続いている伝統的な現場では議論されないことも多いものです。また、伝統的な方法で制作する職人さんと、現代のビジネスの時間感覚などの違いにも気を付ける必要があります。職人の手による本物の紅型のデザインが正しく活用されるために、これらのことを丁寧に話し合いながら一つずつ解決して進めているそうです。

岡本さんの取組は、新しい技術を取り入れるなど、最先端に見えますが、伝統的なものを持続させるために、それを生み出すことのできる職人を大切にすることから始まっています。会津型には著作権を有する人はいませんが、その歴史を大切にしながら、新たな発想を取り入れて、現代の生活に必要とされる活用を考えていくことが必要なのではないでしょうか。

会津型勉強会

第2回『伝統工芸をつかおう』②

「漆芸 × 活用・協働」

講師 小林 めぐみ氏



小林 めぐみ

福島県立博物館 専門学芸員

専門は美術工芸。2010~2012年、会津の文化資源である「漆」をテーマとした『会津・漆の芸術祭』を企画・運営。近年は、福島県立博物館の文化観光事業「三の丸からプロジェクト」で、会津塗を含む会津のものづくりを紹介する事業を担当。

福島県立博物館で漆を中心に工芸を担当されている小林さん。調査研究とそれらについての展示をする博物館という立場から、伝統的なものやアーティスト、そして会津のまちと「協働」したさまざまな事例についてお話をいただきました。

博物館主催で2010年から3年間開催した「会津 漆の芸術祭」。開館から26年経ち、利用客が減ってきていたことを受け、何か博物館としての役割が果たせていないのではないかと感じ、調べたことや、収集しているものに対して新しい見方を提案することで会津の歴史や文化をもう一度見直してもらえないのではないかと考えました。その中で浮かび上がったのが芸術祭だったそうです。考古分野の扱う縄文時代の漆の出土品や江戸時代の漆の技術、民俗分野の漆の精製や、漆からどうろうそくを作るか、また美術分野の平安時代から残る様々な漆の作品や、現代の作家さんや職人さんの漆芸についてなど、そうした会津ならではの漆の固有性は、総合博物館だからこそ伝えることができるのではないかと、そして、それらを読み解いて、新たに表現して伝えるための発想と表現力を持つアーティストに力を貸してもらおうということで、博物館が主催する芸術祭となりました。歴史的建造物などで展示することで、会津のまちの歴史も合わせてご紹介することができたそうです。まちと、漆のさまざまな面、そして現代の作家たちの視点が合わさったたくさんの作品をご紹介いただきました。

また「会津の侍、武家文化」「若松城下の商工文化」

「雪国の暮らしとものづくり」という3つのテーマを会津の文化資源として伝える文化観光事業「三の丸からプロジェクト」についてもお話いただきました。この事業でも、博物館の調査研究をベースにその土地に紐づいた物語を紹介しながら、実際に体験していただいて本物の文化に触れてもらう、そしてそれが生まれている現地にいってもらおうという流れを作ろうとしているそうです。例えば、会津木綿の3つの織元にその歴史を聞いた後、そのうちの原山さんのご協力で柄を選んで、はたきを作るというワークショップを行いました。このような、学びをベースに体験して持ち帰るという形を地域の伝統文化や産業、観光業など様々な人々との協働により広げていき、文化を伝える仕組みづくりを進めたいと考えているそうです。

こうしたなかで、「雪国暮らしとものづくり」をテーマにしたマルシェなども始まります。そして、レストランも“博物館にあるからこそ”のものにしたいと見直し始めました。さまざまな業種の方に入っていたいただいたコンセプト作りでは、「本物」というテーマが見えてきたそうです。漆を使ったテーブルや、会津木綿を張った椅子にするなど、本物を体験できるレストランへと改装が進んでいます。

小林さんはお話のなかで、「博物館のみでは成しえなかった」と何度も振り返っておられましたが、どの事例も博物館ならではのものでした。しっかりとした調査研究に裏打ちされた本物であることと、間口を広げることは共存できる、と教えてくださるお話でした。

きたかた 会津型 ミュージアム・ウィーク

令和4年10/7~10/16

期間中は、「蔵のまちアート・ぶらり〜」と同時開催にしたこともあり、さまざまな会場を巡ってくださるお客様の姿がありました。展覧会「くらしのなかの会津型」では、実物をご紹介する機会を作ることができ、「こんなに素敵な文化財があるなんて知らなかった」という声を聞くことができました。

オープニング 「会津型のこれまで」

前半は伊勢型紙×会津型をテーマに、ポーチに色さしをするワークショップを那須さんに行っていました。職人である那須さんの「完成度のあるものを作らせてあげたい」という気持ちが伝わってくるワークショップでした。

後半は、冠木昭子さんより会津型と出会いから現在の会津型研究会について、那須さんより伊勢型紙と会津型の違いについてお話ししていただきました。

きたかた会津型ミュージアムウィークのチラシ。市内で会津型の商品を購入できるお店、まちなかで会津型を使ったデザインを見られるところを記した地図を掲載しました。5枚の型紙でひとつの柄をつくるスタンプラリーも好評で、チラシを手に各会場をまわっている姿もありました。また、チラシに掲載させていただいたお店には本事業のポップを置いていただきました。

令和4年度 喜多市文化芸術創造都市推進事業 楽しむ
きたかた「会津型」ミュージアム事業 2

▲市のホームページはこちら

10/7(金)~10/16(日)

会津型ミュージアムウィーク

喜多市の染型紙

市内の歴史的建造物などを会場に、展覧会やワークショップ、トークイベント、スタンプラリーを通じて会津型を楽しめる10日間です。

※ご来場の際は、新型コロナウイルス感染症対策の上お越しください。
※新型コロナウイルス感染症状況により、変更または中止となる場合があります。

「会津の染型紙と関係資料」として
福島県の重要有形民俗文化財
に指定されています。

東北一円で販売された
昭和初期にかけて
江戸後期から
会津型は、

蔵に残されていた型紙と資料が
市内の製造元の

染型紙です。

通りの案内板

新金忠 明治蔵
会津型ミュージアムウィーク会場
会津型スタンプラリー
会津型が見られるところ
会津型を使った商品の販売店

喜多市立図書館
銀印民俗館
山中煎餅本舗
甲斐商店
オクマピープルズジャパン
会津喜多市漆器
商工協同組合
若喜商店
アトキ
幸橋の欄干
喜多市役所
喜多市美術館
蔵の里
喜多市プラザ文化センター
喜多市市民センター
新金忠 明治蔵
会津型ミュージアムウィーク会場
会津型スタンプラリー
会津型が見られるところ
会津型を使った商品の販売店

江川米菓店

JR喜多方駅

きたかた
会津型
ミュージアム・ウィーク

会津型 × (カケル)



「染織工房れんが」で型彫体験とランプシェード作りを行っていただきました。建物内では会津型のデザインを使って藍染めした商品の展示も行っていました。

本事業に関わっていただくなかで、研究会のみなさんの、本物を伝えようとする姿勢が見えてきました。「台紙は和紙の方がいい。会津型の素朴な雰囲気に出会うから」と、色差しに使う色や素材にこだわり、会津型とはなんなのかを常に考えることの大切さを教えてくださいました。

活動のひとつとして、会津型のデザインを元に新たな型紙作りも行っておられます。文化財としての“会津型”から新しいものが創造され、広がっていく未来が見えてきます。



会津型研究会



会津喜多方漆器商工協同組合

地域おこし協力隊
吉田真菜氏

漆の豆皿に、金箔を使用した会津型の箔押し体験を行っていただきました。喜多方の地場産品である漆器とのコラボが実現し、他の伝統的なものや布ではない素材と掛け合わせる新たな可能性を示していただけました。かつて型紙は陶器の絵付けにも使用され、現在も革に漆で模様をつける技法である“印伝”にも使われます。伝統的なものや手仕事との相性がいいものだと思えて感じることができました。また、作家の持つ感性や技術をお借りする楽しさを教えていただきました。



きたかた 会津型 ミュージアム・ウィーク

会津型 × (カケル)

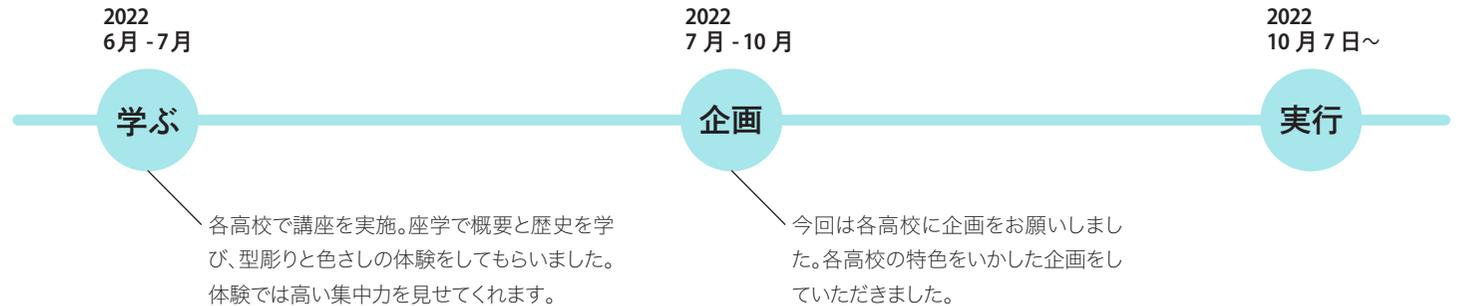


喜多方高校

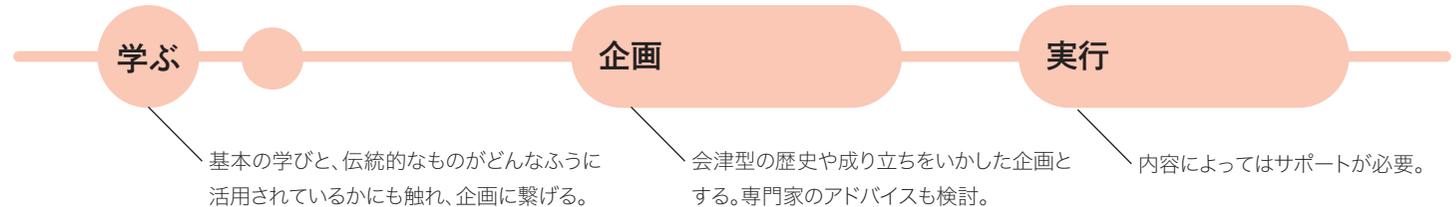
桐桜高校

耶麻農業高校

今年度のすすめ方



▶理想のすすめ方



市内の団体や学校による、ワークショップなどを通じて会津型に触れて楽しむ企画として実施しました。高校生たちにはまず会津型を知ってもらうために、各高校で講座を開催しました。会津型の歴史や染型紙について学び、型彫り体験も行っていただきました。

喜多方高校は生活部と美術部が参加してくださり、生活部では地元の企業と協働でスイーツと合わせたアクセサリー制作のワークショップを企画してくださり、美術部は会津型のデザインを取り入れた屏風を共同制作してくださいました。

桐桜高校は、会津型のデザインを使用したプロジェクトマップを制作してウィークの会場で展示し、また会津型のデザインのなかから柄を選んで企業に

依頼して制作した手拭いの販売を行っていただきました。

耶麻農業高校は会津木綿の生地を使ったコースターに会津型のデザインで色さしをするワークショップを開催してくださいました。

学生のみなさんはクロージングでも様々な感想を述べてくださり、高校生に関わってもらい、地元の文化財に興味を持ってもらえたという実感が強く持てました。「学ぶ、企画する、実行する」というステップを踏みましたが、企画の段階でも会津型の特性を取り入れてもらうなど、より工夫を重ねていくことで、文化資源を教育プログラムに活用できるという可能性を感じました。



文化資源を 教育プログラムに 活用する可能性

きたかた
会津型
ミュージアム・ウィーク
クロージング
「会津型のこれから」

現代の感覚を取り入れることが大事。/漆器、竹細工、会津型...**地場産品全部を取り入れたコラボ**をすればよかった。/職人だけでは企画力が足りない。**プロデューサーがほしい**。/会津型について語り合える場があるといい。

吉田真菜氏

会津型クイズを作った。東北一円に販売されたことを知らない人が半数いて、**事件だ**と思った。/進学や就職に役立ちそう。/**NPO法人を立ち上げて**会津型の商品やイベントを企画したい。

喜多方桐桜高校

同じ型紙でも染料が異なれば全く別のものになる。/喜多方高校が体験に来てくださった。**高校同士がお互いに体験できる時間**があればよかった。

耶麻農業高校

このイベントを続けてほしい。継続しないと育っていかない。/会津型は自由。これは最大のアドバンテージ。/岡本太郎の「**伝統は守ることではなく創造の現場である**」の言葉は会津型にとって応援のメッセージ。/何が会津型なのか、デザインなのか技術なのか。大切な問いである。/再デジタル化をすることが今後財産になる。/会津型は**東北全域のシンボル**。独占して抱え込むのではなく**徹底して開いていく**。

赤坂憲雄氏

会津型は何を残すのか。/型の意味が変わらないように同じ形で残したい。/再デジタル化や再度の整理作業が必要。とくに会津型の特徴である**緋柄や長板中型**。これが会津型だ、というものを世に出したい。/**手仕事による微妙なズレが作り出す温かみ**は会津型の大事な部分。

会津型研究会

クロージングトークで参加者のみなさまからいただいたことばを集めました。

参加者のことば

喜多方の風土や文化を考えながら柄を選んだ。/**デジタルユース**へ会津型を取り入れたい。

喜多方高校

本物に触れ、触れるだけでなく体験する、体験して本物と比べる、また体験したくなる。いい連鎖が生まれている。/会津型の良さは**懐かしさ**を感じるところ。世界に通用する。/会津DX日新館は**デジタルを用いながら地域の文化をどう残すのか**もテーマ。知恵を出し合いたい。

/会津型ほど**多様性**に富んだ型

はない。

高野武彦氏

先人の残した文化をつないでいくことが求められている。1919年にスペイン風邪が流行って大変な状況の時さえ、県立中学を喜多方に作ってほしいと嘆願をしたり、喜多方美術倶楽部を作ったりして、伝統や歴史を守ろうとしてきた。**コロナ禍の今、地域づくりをしていかなければ**いけない。

遠藤忠一市長

企画運営する力も**デザイン**。デザイン力を発揮できる場を作っていくと、喜多方が**創造都市**として動いていく。/クロージングは**次のはじまり**、今日が次の0回。

川延安直氏

知る

3

会津型アイデア交換会

これまでの成果を踏まえ、また次年度へ向けて、関連する分野の方の声を取り入れ、連携・協働のきっかけをつくるために、事業の成果報告とワークショップを開催しました。

2023
2.17 金

参加者：事業者
公共施設職員
地域おこし協力隊
市職員

会 場：喜多方市役所2階 大会議室

プログラム：①令和4年度 事業報告
②会津型色さし体験
③会津型アイデア交換
ワークショップ

会津型 アイデア交換会

このアイデア交換会はもともと計画されていたものですが、ウィークを終え、これからさまざまな分野に関わってもらいたい、また、来ていただくみなさんにもつながりを持っていただきたいと、構成を考え直しました。また、関連する市役所内の各課からも参加してもらうことにし、連携への足がかりの会としました。

商工農、工芸、文化・アート、観光・飲食、公共施設の5つの分野にわけ、それぞれすずめ、つばめ、こうもり、うずら、ちどりと、型紙にちなんだ鳥の名前のチームとしました。

まずは会津型と本事業のことを知っていただくための事業の成果報告、からだと心をほぐすアイスブレイクとしての色さしワークショップ、そして最後に「会津型〇〇をプロデュースしよう!」と題したアイデア交換会という構成で進めました。



アイデア交換のワークショップでは、最初に伝統的なものの活用の最近の事例を紹介しました。それから「会津型のカフェ」や「会津型ツアー」、「会津型教育プログラム」などのお題を各チームくじ引きで決定し、架空のプロジェクトを考えてもらいました。身近なテーマを架空のものとして考えてもらうことで、自然とブレストが広がりました。最後の発表では、チームで一番おもしろいアイデアや、架空のツアーのプランなど、さまざまに発表していただきました。「この事業をやりたい」と、アイデアを書いた付箋を貼り付けた模造紙を撮影して帰られる事業者さんの姿もあり、会津型を通じてアイデアを交換することができた、と実感できる終わりとなりました。いただいたアイデアや、来てくださったみなさまとのつながりを大切に、次年度以降の事業に活かしていきたいと思います。

盛りだくさんの内容になったため、話を聴きたくなる画像資料や、あとでゆっくり読んでいただくための紙資料など、しっかりと持ち帰ってもらうために準備をしました。机の上も、楽しそうな雰囲気を出すために色差し用の型紙を並べておきました。チームの名前につけた鳥の型紙は、この日のために制作しました。



公民館講座で作った会津型柄の赤べこを持ってきていただきました。

会津型アイデア交換会で出たアイデアたち

ちどりチーム（公共施設） 「会津型学習プログラム」



- PR
 - ・美術館で会津型展覧会
 - ・英語で伝える型紙文化
 - ・デジタルアートを型紙を素材としてやってみる
 - ・道具の文化
 - ・型紙のCM作り（映像作成）
 - ・市内各所で展覧会
 - ・喜多方のPRに会津型を取り入れる。

- 学習
 - ・会津型をこれから大人になる子どもたちに伝える。（勉強会）
 - ・世界と日本の型紙について
 - ・世界の型紙みたいな文化を集合させる。比較文化。
 - ・情報の授業で SNS と型紙情報発信
 - ・会津型研究会冠木さんの講演会
 - ・資料から読み解く（本）
 - ・ワザ 技術
 - ・歴史の学習
 - ・新しいデザインの会津型を募集して市主催コンクールをする。（大人・小・中・高それぞれの部門）

- コラボ
 - ・プロジェクトマッピング
 - ・本の装丁（ノートとかも...）
 - ・SDGs にむすびつけた
 - ・チームラボとのコラボ企画
 - ・出産届けの時 母子手帳の柄として欲しい（市からお祝い）
 - ・会津大学とコラボ
 - ・旅館のゆかた、タオル、アメニティーに会津型

- ・地域おこし協力隊さん（OG含む）コラボしたい！
- ・ランドセルの内側のデザイン会津限定！！
- ・美大の先生と一緒に 版画？
- ・他地区の産業とコラボ
- ・地元の産業を学びながらコラボ
- ・のるーとみんべえ号にラッピングバス 電車 etc.

- 物づくり
 - ・学習プログラム
 - ・渋紙のつくり方
 - ・柿渋をつくってみる
 - ・うちわ作り
 - ・農業科で染物体験（育てて染めて）
 - ・喜多方ならではのお土産に会津型を取り入れる。
 - ・かわいいデザインのポロシャツで仕事したい。
 - ・手ぬぐいをつくってみよう
 - ・ゆかた作り
 - ・アイシングクッキー
 - ・カレンダー作り
 - ・酒ラベル
 - ・藍ぞめ
 - ・サンドグラス
 - ・ポストカード制作
 - ・物作り



すずめチーム（商工農） 「会津型カフェ」

- インテリア
 - ・店内のランプシェードが会津型
 - ・会津型ステンドグラスが楽しめるカフェ
 - ・照明の影が会津型模様
 - ・型紙が会津型の模様のカフェ
 - ・プロジェクトマッピング
 - ・ロケーション農村の蔵の白壁
 - ・会津型のカーテン・テーブルクロス
 - ・外壁が会津型模様（写真スポット）
 - ・店員さんの服が会津型模様

- ・カフェの店員さんのユニフォームが会津型のプリント柄
- ・店員さんのネイルが会津型

- 体験
 - ・体験型 皿やカップ、スプーンなどに色付けなどを自分でする
 - ・会津型、漆器、きり、会津木綿など、外国人が関心を持ちそうなものを使ったカフェ
 - ・色差し体験ができるカフェ
 - ・会津型ミュージアムに併設したカフェ
 - ・コースターが会津型で、コーヒーを置いた熱で下に型を押せる
 - ・会津型型抜き体験夏まつり
 - ・自分で作るラテアート
 - ・会津型ラテアート体験
 - ・カップチーノ インスタ映え
 - ・クッキーに会津型を焼き印 パッケージも会津型
 - ・会津型チョコレート 喜多方のなじみの味をチョコレートに（酒、酒かす、みそ、醤油、ごま）
 - ・パッケージ
 - ・酒ラテアート
 - ・会津型クッキー、ケーキ等 デザイン入りスイーツが食べられるカフェ

- 丸ごと会津型
 - ・会津型がデザインされた食器を使ったカフェ
 - ・カフェ、皿・カップ・スプーンセット 漆、木、陶器
 - ・会津型のコーヒーカップで楽しむカフェ
 - ・とりあえず会津型だらけのカフェ
 - ・会津型をモチーフにした薄い板状の砂糖が一緒に出てくる
 - ・Take Out のコーヒー（紙コップ）の柄が会津型モチーフ（またはスタンプ）
 - ・会津型がデザインされた容器でテイクアウトコーヒーを売る
 - ・抹茶ほうじ茶を提供する。和テイストの会津型カフェ（懐紙に会津型の透かし）

- 特典
 - ・会津型の製品等を持って行って店員さんに見せると割引になるカフェ
 - ・会津型模様のコースターもらえる
 - ・縁起を担ぐコースター

- 周遊
 - ・シン会津型 令和会津型
 - ・着物のレンタル 会津型のデザインが入った着物（振袖）市内の夏を楽しむ
 - ・オリジナル下駄、昔喜多方にはいっぱいありました。セーターでも可。鼻緒会津型。

つばめチーム（工芸） 「会津型お土産」



- ・酒器
- ・食器
- ・マグカップ
- ・日光ひかり
- ・とけい
- ・日常
- ・特別
- ・会津木綿
- ・自然
- ・布
- ・高級思考

- ・消えるやつ
- ・食べ物
- ・ペットボトル飲料
- ・のみもの（変化）
- ・お酒
- ・おかし
- ・おせんべい
- ・カップラーメン
- ・お箸
- ・木＆漆
- ・ラーメン
- ・お酒
- ・日本酒
- ・調味料 しょうゆ、みそ、塩

- ・身のまわりで使えるもの
- ・マスク
- ・ハンカチ手ぬぐい
- ・食べた後に使える箱
- ・小物入れ
- ・体験キット
- ・缶
- ・うちわ
- ・せんす
- ・Tシャツ
- ・エコバック
- ・紙
- ・花
- ・ラッピング
- ・レジ袋、包装紙
- ・クリアファイル
- ・赤べこ
- ・ステッカー

うずらチーム（観光・飲食）
「会津型まちづくり」



- 大物に会津型
 - ・ラッピング電車
 - ・バスに会津型
 - ・会津型ラッピングバス座席、運転手さんユニフォームすべて
 - ・立体会津型美術館（体験型）会津型がアスレチック
 - ・隠れ会津型を公共施設に入れる
 - ・文化施設、障子、ガラス
 - ・学校の壁
 - ・喜多方駅構内の壁、階段など
 - ・建物の外壁に会津型を入れる
 - ・蔵の壁会津型
 - ・マンションの壁画にする
- 会津型イベント
 - ・会津型リカちゃん街めぐり
 - ・会津型グッズを集めよう！！
 - ・喜多方のインスタ写真スポットに会津型フレーム
 - ・会津型コンテスト
 - ・レトロ横丁で型抜き大会（屋台の型抜き）
 - ・会津型マスコット
 - ・あい d 型モチーフをクイズしな

- がらめぐる
- ・会津型を着た公認キャラクターをつくって PR
- ・市内飲食店に会津型のコースター（集める楽しみ）
- ・市内飲食店のランチョンマット紙のデザイン
- ・会津型スタンプ

- プロジェクションマッピング
 - ・喜多方駅にプロジェクションマッピング
 - ・会津型プロジェクションマッピング、ライトアップ。イベントに合わせた柄
 - ・市役所の外壁がプロジェクションマッピングでライトアップ。四季で変わる
 - ・スキー場のゲレンデに会津型プロジェクションマッピング

- こどもと会津型
 - ・学生割のどこかに会津型
 - ・子どものランドセルカバー（黄色）が会津型
 - ・一年生の帽子は会津型柄
 - ・子ども達の教科書会津型

- グッズ
 - ・会津型の年賀状の柄に
 - ・会津型せんべい
 - ・会津型ガムテ
 - ・カレンダー作る（季節の柄で）
 - ・ふるさと納税用ダンボールを作る
 - ・会津型ガムテ

- めじるし・看板に会津型
 - ・ヨーク・COOP 看板に会津型
 - ・会津型の巨大オブジェを作ってシンボルにする
 - ・屋号に会津型入れる
 - ・各店の看板に使う
 - ・喜多方ラーメン店の暖簾に使う
 - ・市長が会津型の着物を着る。京都みたいに
 - ・会津型、着物、浴衣お出迎え。JRとかお客様。

- まちなみに会津型
 - ・マンホールの柄に使う
 - ・信号の○の中に会津型（かくれ会津型を作る）
 - ・道路に会津型
 - ・街灯にする
 - ・歩道の化粧ブロックを会津型に
 - ・標識に会津型を入れる

こうもりチーム（文化・アート）
「会津型ツアー」



- つくる
 - ・会津型ガラス彫刻体験
 - ・会津型 × 桐下駄鼻緒？ or 足裏部分刻印
 - ・会津型 まきえ風鈴づくり
 - ・会津型のりおき・染め・手ぬぐい制作体験
 - ・会津型オリジナルグッズ作り
 - ・漆器陶器に絵付け体験
 - ・スマホケース アクセサリー
 - ・何かを作るお土産

- たべる
 - ・会津型の柄を施したお料理で会津型フルコースを召し上がっていただく
 - ・山都そば
 - ・ラーメン

- おみやげ
 - ・会津型の入ったおかし喫茶店
 - ・会津型の模様をほどこしたお菓子の開発をしてツアーのお土産に
 - ・土産品

- めぐる
 - ・会津型レンタサイクル
 - ・バス、飛行機などに型を模して送迎する
 - ・会津型浴衣着て散策 × マルフク写真館
 - ・会津型柄の観光バスでツアー！走る広告塔だ！
 - ・（会津型）きものを着て観光
 - ・会津型を多く取り扱った旅館に泊

- まる
- ・体験で作った会津型の品がパス代わりに
- ・工房見学
- ・歴史めぐり

- さがす
- 【**通年**】 町中にかくれている会津型サインを探せ！
蔵 バンクシー的

- 【**季節**】 スタンプラリー子どもまつり
地域、地元のガラ

- みせる
 - ・会津型ミュージアム × チームラボみたいな
 - ・会津型ロードを作る（道路に模様）そこを観光スポットに
 - ・会津型のテーマパーク（ミュージアム）を作って観ていただく
 - ・会津型をほどこした映えスポット！ SNS で広まればこっちのモンだ！！

- さいごに
 - ・大会
 - ・学校
 - ・「新たな模様を採用されるかも…」アイデア大会

- ・ワーケーション
- ・スタディケーション
- ・切り絵スクラッチ
- ・デザイン、デザイナー
- ・会津型を染めた布を使用して、洋服のセミオーダー のらぎとかワンプピとか

- ◎めぐる
- 1 からつくる。紙、柿渋、刀もの、デザイン
- 春：①ケナフの種まき 会津型を学ぶ 藍の種まき
- 夏：②刃物をつくる 染める
- 秋：③柿渋
- 冬：④彫る のりおき

- 型紙研究は今、これから。
- 伝統を守るだけでは生き残れない難しさ。
- 伝統の活用・活性化は、分野にとらわれず、新たな視点で必要とされる活用を考えていくことが大切。
- 調査研究に裏打ちされた本物であることと、間口を広げることは共存できる。
- 自治体職員として、市民のひと同じビジョンを持って進められた。今後もそうしたい。
- さまざまな分野とのつながりづくりの第一歩として、会津型と本事業のことを持ち帰ってもらうことができた。



他分野や他の産地などと連携していくことで、
文化の持つ創造性を活かした“まちづくり”ができそう！